



例会日/毎週木曜日 12:30  
 例会場/グランプラザ中津ホテル TEL 0979-24-7111  
 事務局/〒871-0055 中津市殿町1383の1 中津商工会館2F  
 TEL 0979-22-9716 FAX 0979-22-9722  
 e-mail office@n-heisei.org  
<http://www.n-heisei.org/>

**第1276回例会 平成28年10月13日(木)**

- 本日の例会プログラム ゲスト卓話「米山記念奨学会について」  
RI第2720地区米山奨学会・学友委員会 委員長 秋吉 実氏
- ◎次回例会プログラム 「中津市の財政状況について」  
中津市役所 財政課



**前回(1275回例会)の記録  
平成28年10月6日(木)**

<p>■ゲスト 中津市役所 商工観光部 企業誘致・港湾課 課長 釘田裕樹氏 羽立友一氏</p> <p>■ビジター 神本博志氏 (中津中央RC)</p>	<p>■出席報告 会員数 23名 免除者数 3名 対象者数 20名 本日出席者 11名 欠席者数 9名 出席率 <b>55.00%</b></p>
---	---

■1274回出席報告の修正  
 1274回欠席者 6名  
 メイクアップ 0名  
 欠席者 6名  
 修正出席率 74.73% → **74.73%**

- メイクアップ なし
- 欠席者  
梶屋会員、初倉会員、仲本会員、中島会員、矢頭会員、鋳坂会員

◎ロータリーソング 君が代、奉仕の理想

◎会長の時間 長野会長

このところ、週末から週明けに台風が来るとい  
うことが続き、警報など出されますが、若干風が強  
いだけというのが3回連続しました。  
この台風とともに夏が終わり、本格的な秋の行楽  
シーズンとなってきて、今週末からはコスモス祭りも始まります。  
ロータリークラブの行楽行事としましては姫路での姉妹交流があり  
ます。  
中島会員が皆さんが楽しめるようなエクスカージョンを用意してい  
るはずですので、多くの参加をよろしく願います。  
そして、先週の土曜日、玖珠ロータリークラブ35周年に辛嶋さんと  
黒瀬幹事と行ってきました。熊本震災のために延期されていま  
した、盛大に開催されました。  
記念講演は九大のキム・ソンヨン先生から久留島武彦についての  
話を聞きました。なかなか面白い話でした。私たちが再来年には30  
周年を迎えます。  
それに向かって早めの準備をしましょう。



◎幹事報告 黒瀬幹事

- 例会変更 津久見RC
- 週報受理 津久見RC、加古川平成RC、仙台平成RC、杵築RC



●幹事報告

- ・中津商工会議所より会議所ニュース
- ・中津市生活安全推進協議会表彰規程に基づく表彰候補者の推薦につ  
いて
- ・NPO法人国際ロータリー日本青少年交換委員会が多地区合同奉仕  
活動であることを承認する件

◎ニコニコボックス クラブ広報委員会

【神本会員 (中津中央RC)】 久々にメーカーキャップしました。実は中  
津中央RCでは今年度例会出席率100%を目指しています。休むわけに  
いきません。  
【土居会員】 本日の卓話、釘田課長、羽立さん、ありがとうございます  
。今週の土曜日が当園の運動会です。お天気心配ですが、頑  
張っていききたいと思います。  
【長野会長】 今日は釘田課長、羽立さん、よろしく願い申し上げます。  
中津中央クラブの出席率100%を目指す目標、大変尊敬いた  
します。  
【黒瀬幹事】 会長、辛嶋さんとともに、玖珠RC35周年に行ってい  
ました。よそに出ていくと各クラブの特徴がよくわかり参考にな  
ります。  
【仲本会員】 2週連続欠席しました。申し訳ありません。出席率を  
上げるように努力いたします。  
【加来会員】 ジャガーのSUVに乗り換えました。50台限定販売です。  
英国車を所有するとは思っていませんでしたが、なかなかいい感じです。

【二反田会員】多くのニコニコ、ありがとうございました。

◎ゲスト卓話

「港湾行政の最近の動向と中津港について」

中津市役所 企業誘致・港湾課 課長 釘田裕樹氏



【海上輸送と港湾】

- 主な海上輸送の種類
- ・コンテナ輸送
  - ・ばら積み輸送
  - ・複合一貫輸送

【世界・日本の物流動向】

- 世界の海上荷動き量の貨物構成
  - ・世界の全海上荷動き量は94.7億トン、そのうち、ドライバルクの占める割合は43%と最も多く、三大バルク貨物（穀物・鉄鉱石・石炭）で28%を占める。
- 我が国の貿易量・貿易額の構成比
  - ・日本は資源・エネルギー・穀物の大半を海外に依存しており、その大半（貿易量の99.7%：トンベース）は海上輸送によって行われている。
  - ・近年では、コンテナを利用した電化製品等の高価値品の輸送が増加してきている。
- 日本の港湾取扱貨物量の推移
  - ・日本の港湾取扱貨物量は、オイルショック後を除き、基本は拡大基調である。特に中国のWTO加盟後は急拡大している。

【港湾行政における主要政策課題】

我が国の経済活動や国民生活を支える物流の効率化を進め、我が国の産業競争力の強化と経済再生を実現するとともに、港湾における防災・減災の取組を推進し、我が国全体の災害対応力の強化を図る。

- 我が国の産業競争力の強化と経済再生
    - ・地域の産業と生活を支える効率的な物流体系の構築
    - ・みなとの経済波及効果
  - 港湾に関連する産業は、物流関連産業、製造業、観光産業など多様である。
  - 港湾所在地では、これらの産業による経済効果や雇用効果が発生し、さらに関連する産業や周辺地域にも波及していく。
  - その結果、経済波及効果や雇用創出効果は、市や県の総所得・雇員数等の2割～4割、税収は3割～4割に及ぶと試算されている。
- 地域経済を支える港湾インフラの整備
- 地域経済を支える産業物流の効率化及び企業活動の活性化を促進する効果的なプロジェクトを実施することで、産業の立地・投資環境の向上を図り、地域の雇用と所得を維持・創出。

中津港 国際物流ターミナル  
複合一貫輸送ターミナル  
約356億円（1996～2012年）  
自動車製造工場の新規立地等  
投資額：約1,130億円（2003～2010年）  
雇用増：約5,800人

- 我が国の輸出産業支援の例（自動車産業に係る主な課題）
- 完成自動車の輸出に際しては、船舶の大型化に伴う岸壁水深等の不足や、モータープール（完成自動車の一時的保管用地）の不足等の課題がある。

【我が国の産業競争力の強化と経済再生】

- ・クルーズ振興による地域活性化
- クルーズ市場の動向
  - ・世界のクルーズ人口は年々増加しており、2012年には2,000万人を超えている。（10年前の約1.7倍）
  - ・アジア地域でも、中国を中心とする経済成長を背景にクルーズ市場も急成長しており、今後はさらに飛躍的な伸びが予測される。（アジアクルーズ協会の予測では、2020年に2012年比で約3倍の3.8百万に増加）
  - ・日本人の外航クルーズ乗客数も、2013年外国船社による日本発着外航クルーズが本格化したことから、調査を始めてから過去最高となる13.8万人（前年比14.8%増、1.8万人増）となっている。
- 我が国へのクルーズ船寄港実績
  - ・2015年の我が国港湾へのクルーズ船の寄港回数は、外国船社が運航するクルーズ船が965回、日本船社が運航するクルーズ船が489回となり、合計では過去最高の1,454回（前年比250回増）

となった。港湾別では、第1位：博多港259回が横浜港125回を抜き、はじめて最多となった。

- ・外国船社が運航するクルーズ船の寄港回数は、中国からのクルーズ船の寄港増加などから、過去最高の965回（前年比280回増）となり、港湾別では第1位：博多港245回と2年連続で博多港が最多となった。
- ・我が国へクルーズ船により入国した外国人旅客数は、約111.6万人（前年比約2.7倍）と過去最多を大きく更新した。
- 外国クルーズ船の寄港による経済効果
  - ・大型クルーズ船の寄港地における経済効果は1人当たり3～4万円と試算され、特に母港（発着地）になると、その効果は、さらに大きなものとなる。
- クルーズ船の受入環境の改善
  - ・物流ターミナルにおけるクルーズ船の円滑な受け入れやクルーズ客の利用環境の改善を図るため、八代港において貨物と旅客の導線分離等の計画を策定し、現地において当該計画の実証を実施。
  - ・その結果、ミートスペースの確保やレイアウトの工夫により効率的なバスへの誘導や利用者の混雑解消を実現。

【国民の生命と財産を守る】

- 高度経済成長期に集中的に整備した施設の老朽化が進行。
  - 係留施設は、建設後50年以上の施設が平成25年3月の約8%から、平成45年3月には約58%に急増。
- 港湾の施設単位毎に作成する維持管理計画や港湾単位で作成する予防保全計画に基づいて、老朽化や社会情勢の変化に伴って機能が低下した施設の利用転換やスペックの見直し等を計画的に進め、より効率的なふ頭へ再編するなど、戦略的なストックマネジメントによる老朽化対策を推進する。

【中津港の将来計画】

- 企業活動等を支える物流ネットワークの形成
- 東九州自動車道は、2016年4月24日に椎田南IC～豊前IC間が供用開始し、中津日田道路（地域高規格道路）の整備も進んでいる。
- 港湾と高速道路等の物流ネットワーク形成により、より効率的な物流・人環環境を創出し、企業活動や地域の活性化を図ることが期待される。

